

製品名: PEG10 マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80705**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000
分子量	Isoform RF1 (37kDa); RF1/RF2 (80kDa)

抗原情報

遺伝子名	PEG10
別名	Edr; HB-1; Mar2; MEF3L; Mart2; RGAG3
遺伝子 ID	23089.0
SwissProt ID	Q86TG7
免疫原	大腸菌で発現したヒト PEG10 の精製された組み換え断片。

背景

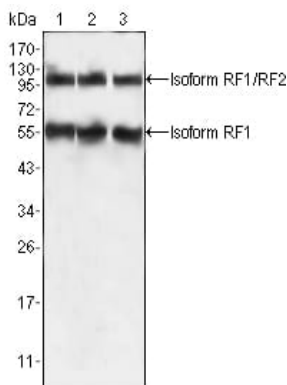
PEG10、父性発現 10。PEG10 には、異なるアイソフォームをコードする同じ転写産物の重複する 2 つの読み枠が含まれています。短い方のアイソフォームは、ほとんどのレトロウイルスと一部のレトロトランスポソンの gag タンパク質に特徴的な配列を含む CCHC

型ジンクフィンガーモチーフを持ち、TGF- β 受容体ファミリーのメンバーと相互作用することで部分的に機能します。長い方のアイソフォームは、pol タンパク質のプロテアーゼドメインの活性部位 DSG コンセンサス配列を持ちます。長い方のアイソフォームは、一部のレトロウイルスでも見られる -1 翻訳フレームシフトの結果です。これら 2 つのアイソフォームの発現は、インプリンティングのために父性アレルからのみ生じます。遺伝子発現の増加 (mRNA レベルの増加として観察される) は、肝細胞癌と関連しています。

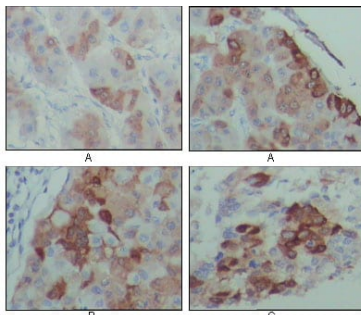
研究分野

アポトーシス

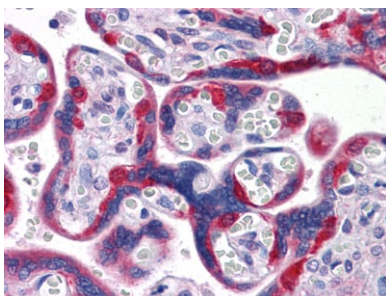
画像データ



HepG2 (1)、SMMC-7721 (2)、A549 (3) 細胞溶解物に対する PEG10 マウス mAb を用いたウエスタンブロット解析。



パラフィン包埋ヒト肝癌 (A)、乳癌 (B)、肺癌 (C) 組織の免疫組織化学分析。PEG10 マウス mAb を使用した DAB 染色による細胞質局在を示しています。



PEG10 マウス mAb を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤組織の免疫組織化学分析